

社会保障は人々の心を温かくするべきもの ―全世代型社会保障と伴走―

櫻井尚美 (23S2018)

こんなに楽しいお話をされる官僚の方がいらっしゃるとは
冷め切った私の日本の行政への思いに血が通いました。
社会保障は人々の心を温かくするべきものであるはずだ。と熱い思いがこみ上げてきました。
難しいことをわかりやすく、とても楽しく引き込まれた 90 分でした。

私のゼミでは、『こども未来戦略方針』の財源が、社会保険料の上乗せで対応されようとしている案について毎回議論が行われています。
消費税の増税で対応すべき、社会保険料の上乗せで保険料アップしたら困る等政府の方針や動向に注視しながら成り行きを見守っています。

私は財源の問題よりもまず、『異次元』という言葉が引っかかり、こどもと異次元が結びつかず、いつもつまづいていたのですが、「異次元ということは、出来なかったことをやることだ！」というお話を聞いて「出来なかったことをやる」と置き換えてみると、3兆円の予算やこども未来戦略方針の内容がずっと腹落ちしました。
受け売りで申し訳ありませんが、明日のゼミでは堂々と発言をしたいと思います。

そして私たち狭間世代は、就職難からはじまり、非正規雇用、介護問題と人生の先達さん立ちが歩んできた道はなくいばら道進んでいます。支出負担という足枷を付けられています。
さらに、今まで出来なかった異次元の対策を費用負担すると言うことで更に足枷がつこうとしています。

両親以上の世代が羨ましく感じ、自分が生きているこの状況を悲観したくなる気持ちもあります。
ですが、費用の面や偏ったメディア等の意見に左右されず、自分の目で見て、考えて、歩んでゆかなければならないと心を入れ替えました。

もしかしたら、昨日までの私は総論賛成各論反対だったかも知れません。
問題を先送りするのでは無く腹をくる覚悟が必要だと言うことを考えさせられたお講義でした。

高齢化社会を健康で生き抜く秘訣は、食事、健康そして睡眠だと思い、8時間以上の睡眠を確保するように努めています。
早めに寝て成長ホルモンを分泌させ、いつまでも山崎さんのように若々しくありたいと思います。
本日はありがとうございました。